
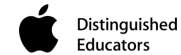


第49回 大阪府・大阪市合同学校図書館研究集会

iPadのある学校 2016

ICTの導入で生徒たちの学びは
どのように変化するのか？

 近畿大学附属高等学校・中学校




近畿大学附属高等学校・中学校
ICT教育推進室 室長

乾 武司

担当教科：理科（生物・化学）



 近畿大学附属高等学校・中学校

現在の近畿大学附属の状況

- ・ 2013年度高校新入生（iPad 第1期生）から
順次導入

→ 1人1台のiPadが自由に利用できる環境

高校生 約 3000人
中学生 約 850人
教職員 約 200人

→ 約4000台のiPadが
常時稼働

 近畿大学附属高等学校・中学校

現在の近畿大学附属の状況

iPad費用は各自が負担

学校が一括購入してキittingして配布

→ 以後、各自が管理・利活用

高校生 約 3000人
中学生 約 850人
教職員 約 200人

→ 約4000台のiPadが
常時稼働

 近畿大学附属高等学校・中学校

電子黒板・書画カメラ・プロジェクタ → 設置なし

携帯電話の所持・持ち込み → 不可

「情報」の授業以外のインターネット利用 → 不可

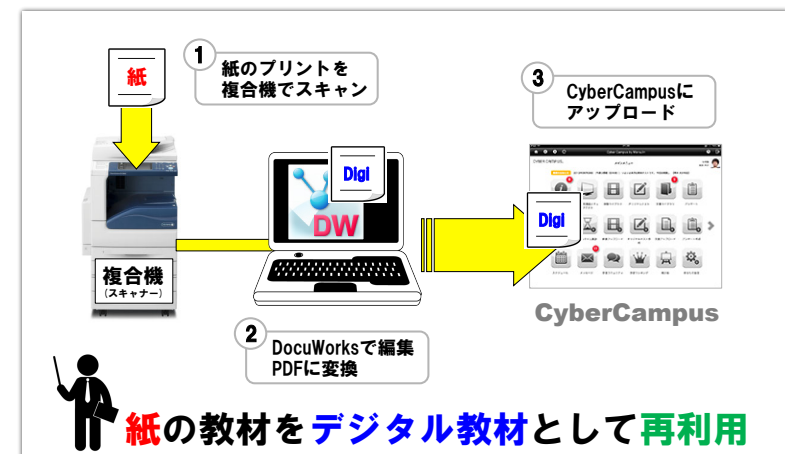
授業スタイル → 板書による一斉授業

- ・ **紙資料**のデジタル化・データベース化
- ・ 授業で用いる**教材**のマルチメディア化
- ・ 生徒たちの自由な利活用による

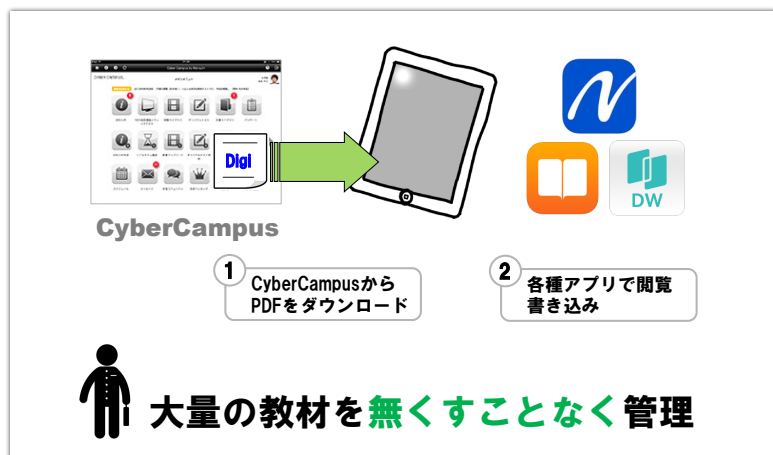
学びの多様化

紙資料のデジタル化・データベース化

紙媒体情報のデータベース化



紙媒体情報のデータベース化



紙媒体情報のデータベース化

鉛筆、ノートと「iPad」があれば、
どこでも普通に学習できる環境が
つくれるように

2016年4月 iPad 第4期生から制カバンを一新

→ あえて物が入らないダレスバッグに



先生たちは副教材が大好き

→ カバンに入る限りの副教材を
持たせようとしてしまう

極力、デジタル教科書を採用
必要な部分を各自が写真に撮り活用